SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023　授賞結果発表!!

★国際コンペティション　グランプリは

『この苗が育つ頃に』

（シリア／監督：レーゲル・アサド・カヤ／英題：When the Seedlings Grow）

★国内コンペティション

『地球星人（エイリアン）は空想する』（松本佳樹監督）が
長編部門　優秀作品賞＆SKIPシティアワード　W受賞!!
『猟果』（池本陽海監督）が短編部門　優秀作品賞!!

ご担当者各位

平素より大変お世話になっております。

“若手映像クリエイターの登竜門”として次代を担う新たな才能の発掘を目指す「SKIPシティ国際Ｄシネマ映画祭」は、7月15日（土）より20回目の開催を迎え、本日7月23日（日）のクロージング・セレモニーにてグランプリほか各賞を発表いたしました！

国内コンペティションでは、国内から公募しノミネートされた短編部門8作品の中から**優秀作品賞に『猟果』（池本陽海監督）、スペシャル・メンションに『ミミック』（高濱章裕監督）、観客賞に『勝手に死ぬな』（天野大地監督）**が、長編部門6作品の中から**優秀作品賞に『地球星人（エイリアン）は空想する』（松本佳樹監督）、観客賞に『ヒエロファニー』（マキタカズオミ監督）**が選出されました。

さらに国際コンペティション・国内コンペティションを通じた国内作品の中から今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に授与される**SKIPシティアワードには『地球星人（エイリアン）は空想する』（松本佳樹監督）**が選ばれ、**『地球星人（エイリアン）は空想する』は優秀作品賞とSKIPシティアワードのW受賞となりました。**

各作品の監督たちは喜びの声を上げ、中野量太(映画監督)、和田光沙（俳優）、マーク・シリング（ジャパンタイムズ映画評論家、Variety日本特派員）３名の国内コンペティション審査員たちからはお祝いのコメントが寄せられました。

続いて国際コンペティションでは、国内外から長編映画制作本数が3本以下の監督による60分以上の作品を公募しノミネートされた10作品の中から、**最優秀作品賞（グランプリ）にはシリア北部、クルディスタンのロジャヴァ地域で撮影されたシリア作品『この苗が育つ頃に』（レーゲル・アサド・カヤ監督／英題：When the Seedlings Grow）、監督賞にアルゼンチン、ウルグアイ合作『僕が見た夢』（パブロ・ソラルス監督／英題：I Woke Up with a Dream）、審査員特別賞にハンガリー作品『シックス・ウィークス』（ノエミ・ヴェロニカ・サコニー監督／英題：Six Weeks）、観客賞にフランス作品『助産師たち』（レア・フェネール監督／英題：Midwives）**が選出されました。

監督からの受賞コメントや、豊島雅郎（映画プロデューサー）、明石直弓（映画プロデューサー）、パトリス・ネザン（映画プロデューサー）３名の国際コンペティション審査員によるお祝いのコメントも寄せられました。

表彰式の後には、国際コンペティション最優秀作品賞を受賞した『この苗が育つ頃に』の上映を終え、15日から9日間にわたり開催されたスクリーン上映は幕を閉じました。なおオンライン配信は、引き続き7月26日（水）23:00まで開催中です。

授賞作品および審査員、受賞者のコメントは次ページ以降のとおりです。

ご多用とは存じますが、ぜひ貴媒体にてご紹介のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

ＳＫＩＰシティ国際Ｄシネマ映画祭２０２３　受賞結果一覧

《国際コンペティション》

最優秀作品賞（グランプリ）

『この苗が育つ頃に』　レーゲル・アサド・カヤ監督（シリア／英題：When the Seedlings Grow）

監督賞

『僕が見た夢』　パブロ・ソラルス監督（アルゼンチン、ウルグアイ／英題：I Woke Up with a Dream）

審査員特別賞

『シックス・ウィークス』　ノエミ・ヴェロニカ・サコニー監督（ハンガリー／英題：Six Weeks）

観客賞

『助産師たち』レア・フェネール監督（フランス／英題：Midwives）

《国内コンペティション》

SKIP シティアワード

『地球星人（エイリアン）は空想する』　松本佳樹監督（日本）

優秀作品賞（長編部門）

『地球星人（エイリアン）は空想する』　松本佳樹監督（日本）

優秀作品賞（短編部門）

『猟果』　池本陽海監督（日本）

スペシャル・メンション（短編部門）

『ミミック』　高濱章裕監督（日本）

観客賞（長編部門）

『ヒエロファニー』　マキタカズオミ監督（日本）

観客賞（短編部門）

『勝手に死ぬな』　天野大地監督（日本）

国際コンペティション　受賞作品

【最優秀作品賞（グランプリ）】　賞金 100 万円

『この苗が育つ頃に』

監督：レーゲル・アサド・カヤ
2022 年｜シリア｜83 分｜英題：When the Seedlings Grow

■受賞コメント

レーゲル・アサド・カヤ監督　※ビデオメッセージ

このような名誉ある賞をいただき、たいへん光栄です。シリアのクルディスタン地域ロジャヴァのコミュニティで制作された、戦争の物語が日本に届きました。私たちにとって、最高の喜びです。カメラと物語を通して、私たちの声を世界に届けようとしています。自由で平等な世界を手に入れようと闘っています。この思いと目的のために、この賞を、戦争が終わった時の素晴らしい日に捧げたいと思います。また、自由と平等のために闘っている人々に捧げます。そして、戦争で命を失った世界中の子どもたちにも捧げたいです。このような賞をいただき、本当にありがとうございます。映画祭で、皆さんと私たちの思いを共有できたことを嬉しく思います。クルディスタン、シリアから、私たちの声を日本に送ることができました。受賞に関わらず、私たちにとって、これが最も大切なことです。

■審査員コメント　豊島雅郎（映画プロデューサー）

国際コンペティション審査員 3 人の満場一致で本作が最優秀作品賞となりました。今回、国の事情や、監督自身の心情から、会場へご登壇いただくことは叶いませんでした。通常、海外映画の場合はセールス会社の方が作品をピックアップして映画祭へエントリーすることが通例ですが、今回は監督がご自身で WEB サイトから本映画祭にエントリーし、何とかして世界に本作の持つメッセージを届けたいということだったと聞いております。このようなレアケースでありながら、グランプリに輝いたということ、そしてそのようなことが可能になる「映画」というメディアに誇りを感じつつ、本映画祭が見出した新しい才能、新しい作品を応援できればと思います。

【監督賞】　賞金 50 万円

『僕が見た夢』

監督：パブロ・ソラルス
2022 年｜アルゼンチン、ウルグアイ｜76 分
英題：I Woke Up with a Dream｜©Marcelo Iaccarino

■受賞コメント　エルナン・オリヴェラ（プロダクション・ディレクター）
※パブロ・ソラルス監督は来日が叶わず欠席

パブロ監督は以前も『家（うち）へ帰ろう』（映画祭上映タイトル：『ザ・ラスト・スーツ』）を本映画祭で上映していただいたこともあり、この映画祭が大好きで、自分の心の大事な位置を占めていると聞いています。今回、『僕が見た夢』をこの映画祭で上映していただけたことは私自身も嬉しく思っています。審査員の明石さんがおっしゃる通り、本作は演出が大変でした。しかしながらその成果をしっかりと捉えていただき、そして評価していただけたことが、私としても大変嬉しく思います。

■審査員コメント　明石直弓（映画プロデューサー）

選出にあたり、作品の完成度はもちろんですが、監督がどんなチャレンジをしたかということも大きな要素となりました。映画において物語のスタートからゴールへ至る道のりは監督次第であり、その道程が映画の個性になると私は思っています。『僕が見た夢』はシンプルな物語でありながら、演劇と映像を融合した形で描かれていて、とてもユニークでした。登場人物たちが発するリアルな言葉や感情を、監督が丁寧に捉えていて、この映画に向き合う監督の真摯な姿がスクリーンから滲み出ていた。脚本は主人公を演じたルーカス・フェロさんが参加したワークショップで作った脚本を基に作られたと聞いています。まさに本作は、監督と俳優の素晴らしい絆による共同作業によって生まれた作品であると感じ、こうした作品作りが成功していることは、私自身も大変励みになりましたし、今後どういう作品を作っていくかということの指針にもなりました。この映画が日本で上映され、たくさんの人に見ていただけることを願っています。

国際コンペティション　受賞作品

【審査員特別賞】　賞金 30 万円

『シックス・ウィークス』

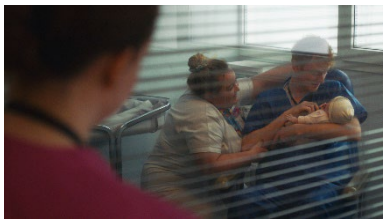
監督：ノエミ・ヴェロニカ・サコニー
2022 年｜ハンガリー｜96 分
英題：Six Weeks｜©AlmaFilms

■受賞コメント　ノエミ・ヴェロニカ・サコニー監督　※ビデオメッセージ
私たちはとても感動し、名誉ある賞の受賞を本当に嬉しく思っております。本作の制作は、私たちキャスト・スタッフ全員にとって、とても困難なものでした。プロデューサーを始め、すべてのスタッフにとって、この受賞は本当に嬉しいことです。なぜなら、すべてのスタッフがこの初長編作品に、たくさんの愛と労力を注いだからです。本作が作品を観てくださった観客の皆さんの心に届いたということを聞きました。とてもとても嬉しいです。ありがとうございました。

■審査員コメント　パトリス・ネザン（映画プロデューサー）
映画というものは世の中を語ったり、世の中の複雑性を表現するのに恰好な媒体だと思っています。こと『シックス・ウィークス』に関しては、監督はリアルな世界を描くことができているし、自分が語ろうとすることをはっきり把握している印象を持ちます。監督はこの作品で、フィクションという文法で非常に強い主人公を描き、我々はそれに共感し、慮ることが出来る人物を描いています。我々は至近距離で主人公を見ることができ、彼女に思いを馳せ、仮に現実世界で会ったことがない人であっても非常に身近に感じられるキャラクターを描けていると思いました。

【観客賞】

『助産師たち』



監督：レア・フェネール
2023 年｜フランス｜100 分｜英題：Midwives
©Geko Films

■受賞コメント　レア・フェネール監督　※先に帰国したため、ビデオメッセージ
とても素晴らしい賞で、大変光栄であり感激していますし、この賞をいただき幸せです。皆さんに感謝の気持ちをお伝えしたいです。観客の方々と質の高い交流を持てたことは幸運でした。日本での出産の現実について多くのことを学びました。出産が私たちの人生の中心でありどれだけ重要なことかを理解し、本作のテーマを分かち合えたということが興味深く、かつ感動的なことでした。私は大変心を打たれました。この映画のテーマによって人々の心と心の距離が縮まっていくのを見るのは、私にとっては感動的なことだと思っています。なぜなら日本であれフランスであれ、私たちは皆、助産師たちの手の中にいたという事実があるからです。この素敵な賞をありがとうございます。そして観客の皆さんの評価にもお礼を申し上げます。日本に来られてとても幸せでした。

国内コンペティション　受賞作品

【優秀作品賞（長編部門）】　賞金 30 万円

『地球星人（エイリアン）は空想する』

監督：松本佳樹
2023 年｜日本｜99 分｜英題：Alien's Daydream
©世田谷センスマンズ

■受賞コメント　松本佳樹監督
驚いています。本作は、まず自分で面白いと思える作品を作ることを目標としていたので、それは既に自分の中では叶っていて、さらにこのような場で賞までいただくことが出来たことが嬉しいです。トロフィーの重みを感じながら、背中を押してもらったと思って、これからより多くの人に自分の作品を届けていけるように頑張っていきたいと思います。

■審査員コメント　マーク・シリング（ジャパンタイムズ映画評論家、Variety 日本特派員）
SF 映画は人気のあるジャンルです。それでいてオリジナリティを出すのが難しいジャンルでもあります。宇宙人が人間のような姿になりがちですし、スピルバーグの傑作でさえも例外ではない。だから松本監督の『地球星人（エイリアン）は空想する』は、嬉しい驚きです。彼の映画の宇宙人は典型的な SF のテンプレートに当てはまらないし、彼の書くストーリーもそうです。目くるめく映像とイマジネーションで、全く新鮮で恐れのない映画を完成させました。

【優秀作品賞（短編部門）】　賞金 20 万円

『猟果』

監督：池本陽海
2023 年｜日本｜30 分｜英題：Hunting Results
©池本陽海

■受賞コメント　池本陽海監督
この度は、光栄な賞をありがとうございます。自分は、この時代に映画を作る意味を考えながら作っているので、自分たちが置かれた社会や状況、映画で何ができるのだろうということを模索しながら、限られた予算の短編作品で、どう脚本を作り上げるかに時間をかけた。この先、また長編など、映画を作っていこうと思います。

■審査員コメント　和田光沙（俳優）
この作品は、山に猟に出向いた夫婦の関係が、たった 30 分の中で劇的に変化を遂げ、最後は、痛快で包容力あるラストを迎えるという作品。柔軟な発想のもと、緻密に練り込まれた脚本、ユーモアのある演出、計算された構図、全てに無駄がなく、限られた予算や条件の中で、これだけ巧妙な作品を作られた監督の手腕に唸らされた。強さの中にある弱さや、弱さの内側に秘められた本当の強さが描かれており、特に、価値観の違う相手とどう共に生きるか、共に生きることの豊かさや可能性にまで、私たちを連れて行ったくれたことが素晴らしかった。主演の 2 人も、キャラクターに命を吹き込む説得力のあるお芝居で、作品をさらに強固なものにしていました。

国内コンペティション　受賞作品

【スペシャル・メンション】

『ミミック』

監督：高濱章裕
2023 年｜日本｜28 分｜英題：Mimic
©2023 「MIMIC」

■受賞コメント　高濱章裕監督
頭が真っ白です。今回、異例ということで、こういった枠をいただけて、すごく有難いと思っております。また次の作品に向けて、これを励みに頑張りたいと思います。

■審査員コメント　和田光沙（俳優）
今回、8 作品が短編部門で上映されました。どの作品も力作揃いで、作り手の方々の工夫、努力、本当に熱いものが伝わってくる作品ばかりで、嬉しい悲鳴を上げながら悩みに悩みました。最終的に 3 作品に絞り込みましたが、どうにも難航しまして、審査委員長の中野（量太）さんからの提案もあり、優秀作品賞のほかにもう一つ賞を作れないか相談させていただき、今回、スペシャル・メンションという賞を作っていただきました。どの作品もレベルが高く、そういう形になったということでお赦しいただければと思います。

【観客賞（長編部門）】

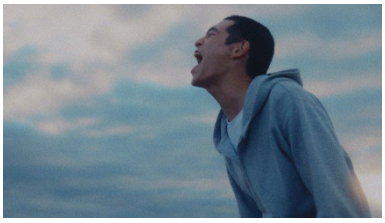
『ヒエロファニー』

監督：マキタカズオミ
2023 年｜日本｜70 分｜英題：Hierophanie
©elePHANTMoon

■受賞コメント　マキタカズオミ監督
ちょっとびっくりしています。見ていただいた方が選んでくれたということで、僕としては一番嬉しい賞。スタッフや俳優に早く伝えたい。

【観客賞（短編部門）】

『勝手に死ぬな』



監督：天野大地
2023 年｜日本｜25 分｜英題：Don’t Go
©DrunkenBird

■受賞コメント　天野大地監督
この作品を観た人の心に何かしらの爪痕を残せたということだと思うので、その重みをしっかりと受け止めてこれからも映画を作っていきたいと思います。ありがとうございます。

SKIP シティアワード　受賞作品

『地球星人（エイリアン）は空想する』

監督：松本佳樹
2023 年｜日本｜99 分｜英題：Alien's Daydream｜©世田谷センスマンズ

■受賞コメント　松本佳樹監督

パニックです。一回登壇した分くらいのコメントは考えてはいましたが、二回目となると…。先ほどお話した通り、まずは自分が面白いと思うものを、という目標を達成して、さらに賞までいただいたところ、もう一つの賞もいただき、さらに背中を押していただいた。トロフィーの重みも二倍になったので、より気を引き締めてやっていきたいです。メインのスタッフが 3 人という本当に少人数での撮影で、僕以外の 2 人や出演者にも迷惑をかけてやってきました。素晴らしい方々に恵まれてこの作品が受賞できたということを伝えたいと思います。

■審査委員長コメント　中野量太（映画監督）

この作品は最後に観ましたが、本当に驚きました。映画というのは技術が進み、新しいものがどんどん作られていくと思っていますし、監督自身も更新されていかなければならない。そう思っていましたが、ついに新しい才能、新しい表現が出来る人が現れたことに驚いた、と同時に嫉妬もしました。僕には撮れない映画です。本当なら多くの人に賞を差し上げたいけど、この映画祭の名前を冠した「SKIP シティアワード」という賞は、今後この映画祭が輩出した監督として誇りになるから、絶対に松本さんにもう一つ差し上げるべきだと私が主張しまして、和田さんとマークさんも了承してくださいました。最初は表現に溺れる作品なのかと思いましたが、途中から人間ドラマに入っていき、ストーリーの作り方も上手。この生き辛い社会で、生き辛い人間がどう生きるかというテーマに加え「正義とは何か」という部分も描いていて、さらに監督のイマジネーションをここまで形にできる監督がいるんだなと感動しましたし、驚きました。この監督はこれから SKIP シティ出身の監督として絶対に世に出てくるので、みなさん覚えておいてください。

※SKIP シティアワードは、国際コンペティション・国内コンペティションを通じた全ての日本作品の中から、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与する賞です。受賞者の次回企画に対し、SKIP シティ彩の国ビジュアルプラザの映像制作支援施設・設備の一定期間の利用を提供します。

《総評》国内コンペティション審査委員長　中野量太（映画監督）

僕は 11 年前までは、そっちの席（ノミネート監督席）にいて、ドキドキして表彰式を迎えたのを覚えています。審査委員長として、本当に厳正な審査をしました。一本一本、監督が何を考えているか、何を表現したかったのか考えて、自分の中で答えを出しながら、丁寧に審査をしたつもりです。みんなが必死で作品を作り、観客の皆さんに見てもらうことで初めて「映画」になる、その経験をするとともに、同年代の仲間たちはどんな映画を作っているのだろうかと考え、自分の今の位置を知る、映画祭にはそういう役割があると思います。自分でも意外だが、僕自身がこの映画祭でとても刺激をもらいました。参加監督たちは、さらにこの映画祭に参加したことの意味を感じてくれているんではないかと思います。この映画祭で、一生懸命作った監督の作品を、お客さんが見てくれて「映画」になった瞬間を、たくさん味わうことができた。それが映画祭の価値だと思うし、それを参加監督たちが噛み締めて、今は喜びに震えている人と悔しさに震えている人がいると思うが、悔しかったら次にやり返せばいい。この映画祭が、みなさんの次へのステップになることを願います。審査委員長の自分は、間違いなく、刺激を受け、次のステップになったので、皆さんにお礼を言いたいです。

主催者コメント

○大野 元裕　（SKIP シティ国際映画祭実行委員会会長／埼玉県知事）

※欠席のため、堀光敦史 埼玉県副知事による代読

開催地である川口市民の皆様や協賛、後援を頂きました企業・団体の皆様をはじめとして映画祭に御協力いただいた全ての皆様に心からお礼を申し上げます。今回ノミネートされた 24 本の作品は、過去最多の 1,246 本にも及ぶ応募の中から厳選された力作揃いですので、選考するに当たり審査員の皆様は、さぞかし頭を悩ませたことと思います。「若手クリエイターがチャンスをつかむ場」という本映画祭の意義に賛同いただき、審査を引き受けてくださいました、審査員の皆様に改めて深く感謝申し上げます。今回受賞された方も、惜しくも受賞を逃された方も、今回をきっかけにお互いに切磋琢磨しながら、それぞれの豊かな才能に一層の磨きをかけ、将来の映画界を担っていかれることを願っております。審査委員長の豊島雅郎さんは本映画祭について「芸術・文化の質を向上させる志を持った、世界に誇れる映画祭である」とコメントしてくださいました。そのお言葉どおりに、今後も若手クリエイターや映像業界から「期待される場」であり続けるため、「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭」を盛り上げてまいります。

○奥ノ木 信夫　（SKIP シティ国際映画祭実行委員会副会長／川口市長）

途中経過ではありますが、今年は、昨年を上回る 7 千人以上の方にご来場いただいた。国際コンペティション最優秀作品賞に選ばれた『この苗が育つ頃に』のレーゲル・アサド・カヤ監督をはじめとする、それぞれの部門で受賞作品の製作に携わられた、監督、スタッフの方々に心からお慶びを申し上げる。今回来場された皆様には、迫力のある映像と音を肌で感じ、デジタルシネマの魅力を十分堪能していただけたことと思う。来年も、ここ川口市の SKIP シティにおいて映画祭を開催できること、また、新たな作品に出合えることを楽しみにしている。

○土川 勉　（SKIP シティ国際 D シネマ映画祭ディレクター）

今年も各コンペティションそれぞれの作品の力が拮抗していて甲乙つけがたく審査が難航いたしました。今回の映画祭で例年と違う点を挙げるとすれば、コンペティション作品の多くの監督たちが熱心に自分以外の作品を何度も観ていたことがあげられます。これは国内コンペティンション審査委員長の中野量太監督が「自分以外の他の人の作品をよく見ろ。そして自分の作品を見つめなおせ」と言った叱咤激励が功を奏したのか、皆さん熱心に見ていました。そのことは今回受賞できなかった監督たちにとっては、何故今回受賞できなかったかを冷静に見つめ、次の作品につなげるために必要なことであり、そして、そのことは商業映画監督を目指す監督たちにとって非常に大切なことであると私も思います。今回参加したすべての作品の監督、俳優、スタッフの皆さんの今後の健闘を期待したいと思います。昨年、私は最後に「ウクライナに一日も早く平穏な日常が取り戻せることを祈ります」と言いましたが、いまだに戦火は続いています。国情が困難なため本映画祭に来られなかったゲストもいました。最優秀作品賞を受賞されたレーゲル・アサド・カヤ監督です。世界中の紛争が収束し、平和な世の中を取り戻せることを祈念し、皆さん、来年もこの場でお逢いしましょう。

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2023（第 20 回）開催概要
■会期：《スクリーン上映》2023 年 7 月 15 日（土）～7 月 23 日（日）
　　《オンライン配信》2023 年 7 月 22 日（土）10:00 ～ 7 月 26 日（水）23:00
■会場：SKIP シティ映像ホール、多目的ホールほか（埼玉県川口市）
■主催：埼玉県、川口市、SKIP シティ国際映画祭実行委員会
■公式サイト：www.skipcity-dcf.jp

＜お問合せ＞ SKIP シティ国際 D シネマ映画祭事務局　堀切　TEL: 048-263-0818　E-Mail: press@skipcity-dcf.jp